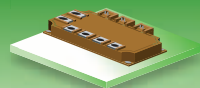


## 電子デバイス



パワー半導体を主力事業と位置づけ、グローバル市場でシェア拡大を図るとともに、高収益事業の確立をめざします。特に、工作機械、ロボットなどの産業分野、およびハイブリッド車などの自動車電装分野とともに、太陽光発電など新エネルギー分野における事業展開を加速します。

ディスク媒体、感光体、太陽電池においては、それぞれの特長を活かした市場戦略により、売上拡大と収益確保を図ります。

(単位:億円)

	2009年度	2010年度	2011年度(予想)
売上高	1,158	1,259	1,318
営業利益	-140	-20	33

### 2010年度の業績概況

半導体分野は、情報電源分野向けでは、中国を中心に夏場以降の減速に加え、為替の影響を受け、前期に対し減少しました。産業分野向けでは、インバータ市場の回復、中国市場の拡大および太陽光・風力などの新エネルギーの拡大により、前期を大幅に上回りました。自動車電装分野向けでは、国内でのエコカー補助金制度の終了影響はあったものの、欧州・アジアで伸長し、前期を上回りました。この結果、売上高、営業損益ともに前期を上回りました。

ディスク媒体分野は、為替影響および東日本大震災発生後の計画停電にともなう操業停止影響により、売上高は前期を下回りました。営業損益は総経費の圧縮・コストダウンなど構造改革により前期に対し改善したものの赤字となりました。

感光体分野は、売上数量は増加しましたが、製品価格の低下や為替影響などにより、売上高、営業損益ともに前期を若干下回りました。

### 2011年度の市場環境

パワー半導体市場は、産業分野において、中国・アジアを中心としたインフラ需要が継続するとともに、全世界での新エネルギー需要の高まりにより、高い成長が見込まれます。一方、自動車電装分野については、期初においては東日本大震災による自動車メーカーの大幅な生産縮小の影響が見込まれ、情報・電源

分野については、需給バランスの不透明な状況が続くものと見えています。

また、ディスク媒体市場ではPCやサーバー、デジタル家電がHDD市場を牽引するほか、感光体市場では新興国中心にプリンタ需要が拡大し、太陽電池市場では今後も需要拡大が続くものと見込まれています。

### 2011年度の方針・戦略

パワー半導体は、IGBTを中心に、基盤である産業分野に加え、エコカー向けや新エネルギー向け製品の開発を強化し、グローバルでの市場投入を拡大していきます。また、SiCを用いた次世代パワーデバイスの開発を推進し、2011年度中の量産化をめざします。さらに、パワー半導体の需要拡大に対応するため、従来ディスク媒体の生産拠点であった山梨製作所を再活用し、前工程生産能力の増強に向けた設備投資を行います。本設備投資により国内2拠点(松本・山梨)での生産体制を構築し、地震や電力供給などのリスクを分散します。

ディスク媒体は、2011年6月にマレーシアに開発・生産・販売の一体運営体制を確立し、業界トップの品質・コストをめざします。感光体は、グローバル販売チャネル、中国一貫生産の強みを活かし、成長が見込まれる低価格普及タイプのプリンタ向けに、拡販を図ります。太陽電池は、フィルム型の特長を活かし、防草発電シートなど、新規市場開拓を進めていきます。